



- 赤田地域「元気ムラ」研修
- 「事業の評価・改善」研修
- 「訪問」仙北市教育委員会
- 五城目小朝市体験学習
- 地域創生ミニセミナー
- 「七色」若者と礼節

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

地域活性化研修④

赤田「元気ムラ」に学ぶ



『元気ムラ』の活動に学ぶ地域づくりの最前線』をテーマとした地域活性化研修④が、10月20日由利本荘市赤田地域で開催され、地元講師7人を含む39人が参加しました。

石窯ピザづくり体験やスーパー・直売所・加工所・大仏ガイド等の活動紹介と意見交流、地域散策を兼ねた現地視察などをおして、参加者の活性化推進への意識が高まりました。

参加者からは、「住民が少ない中でも、様々なことに取り組んでいることに大変刺激を受けた」、「人口減少で大変だと言われる中、赤田の皆さんから『さみしさ』を感じなかった」など、交流の深まりや研修の成果を感じる声が多くありました。

「事業計画と評価・改善について」をテーマに市町村職員専門研修③が、県中央地区社会教育主事協議会研修と併せて、11月10日当センターで開催され、26人が参加しました。

秋田大学大学院原義彦教授及び教育庁中央教育事務所による、学習効果の評価と活用の必要性や事業評価システムづくりの講義に続いて、湯沢市教育委員会生涯学習課高山明班長の事例紹介があり、社会教育中期計画の策定や年度評価の在り方に関わる具体的な取組について学びました。

グループ協議では、指標の定義や評価できるボリューム、数値目標、評価方法などについての意見交換がありました。

**市町村職員専門研修③
事業計画の評価・改善**



虹色企画

訪問インタビューシリーズ 第4回 仙北市教育委員会 熊谷 徹 教育長

一地域文化が教育の柱と聞か

本市には、「北浦」と呼ばれた時代から、千年続く有形無形の豊かな地域文化がある。先人が残してきた歴史と伝統を継承して後生に伝えながら、貴重な文化遺産を世界に向けて発信していく「小さな国際文化都市」を標榜している。

一地域・学校と教委の関わりは

地域と学校には、これまで双方向による連携・協働で培ってきた強いつながりがある。

教育委員会では、この成果を域内で情報共有できるよう、教委日より「きたうら」を月一回全戸配付している。また、地域文化を教材化し再構成した冊子「ふるさと仙北学」は、地域と学校、大人と子

**豊かな地域文化が
息づくまち
仙北市へ**

**地域に根ざした
生涯学習**



仙北市教育委員会 熊谷 徹 教育長

どもと一緒に関わり合う学びの橋渡しになるものと期待している。

一生涯学習の先に見えるものは

「ふるさと」をしっかりと見据えた生涯学習は、すべてのベースとなる極めて大切なものである。

今後、地域公民館の活性化も図りながら、地域の中核となる人材の力を生かす「中央公民館構想」に取り組み、地域から湧き出る力の再構築と再稼働を目指す。

公民館が、多様な人が集まって交流する空間になればと思う。

「ふるさとを愛することは、自分を愛することであり、他を愛し尊重する心につながる」…教育長さんの「ふるさと愛」は、仙北市教育の温かさの熱源でした。

虹さんぽ

500年を超える歴史
「五城目朝市」
五城目小学校
体験学習



寒い中でもマン一家
でも歓迎!



いっしょにしゃべり
のほろを立っ!

11月22日の五城目朝市、子どもたちの元気な声に誘われて歩いた先には、自分たちで育て収穫したサツマイモを販売する五城目小学校3年生たちの姿がありました。

1495年来500年超の歴史ある朝市は、近隣で収穫された野菜等を持ち寄る農家によって引き継がれてきましたが、今は町内に暮らす子どもたちの学びの場にもなっていました。

五城目小では「総合的な学習の時間」に朝市での活動を盛り込み、五城目町の地域文化に触れる体験学習を推進しています。同校の戸

部裕隆校長は「地域や働く人の生き方に触れる学びは、主体性、社会性などが高まり人間的な成長を促す」と、体験学習の意義を語っています。また、お客さんに語りかけていた児童は、「私たちが作ったものをどうやって食べてくれるのかなど、お年寄りとお話することが楽しい」と話していました。

売り手と買い手の仲立ちとなる会話の機会がめっきり減ってしまった昨今、この朝市での体験は新鮮な記憶として、次世代の子どもたちの心に残り続ける気がしました。

地域創生 ミニセミナー

新しい時代の教育に向けた「次世代の学校・地域」創生プラン④

創生プランの推進に当たって2017年3月改正された「社会教育法」の2回目です。

<中央教育審議会の3答申を受けた一体改革>

◇地域と学校の連携・協働に向けた改革 ◇学校の組織運営改革 ◇教職員制度の一体的改革



- 1 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度の改善 →「地方教育行政法」の改正(省略)
- 2 地域全体で子どもの成長を支える「地域学校協働活動」の推進 →「社会教育法」の改正

- ◆「地域学校協働活動」を教育委員会の事務として明記(第5条第2項) **前回**
- ◆「地域学校協働活動推進員」の制度化(第9条の7)

資
質
能
力

- 社会的な信望
- 協働活動推進への熱意と見識
- 学校の教育方針等への理解
- 協働を促進させる能力

職
務

- 協働活動の企画・立案
- 学校や住民、関係機関等との連絡調整
- 地域ボランティアの募集・確保

七色

一時期、幼児のように「いやだ～」と繰り返すタレントを「正直でよろしい」と持て囃した大人たちがいました。この機嫌取りの大人たちは、都合の悪いことをリセットして簡単に逆ギレする若者を増やしてしまいました▼長崎外国語大学光田明正名誉学長は、「躰を受けていない世代が社会で働く時代になった」、「躰、身のこなしは、父母が子どもに伝え、先輩が後輩に語り継ぎながら育む常識である」と述べています▼「躰」の語源は、一説には仏教用語で習慣性を意味する「習気(じっけ)」と言われています。ですから、人間社会の規範、集団生活での規律や礼儀作法などを、日常的に繰り返す習慣化の過程が、躰ではないかと思えます▼大人になりきれない若者たちの言動が憂慮される中、人工知能(AI)が人知と共存する時代がやってきました。AIに、若者を躰ける能力が有りや無しや…。時代の流れに紛れて、簡単にキレる無礼者が増えてはかありません。改めて、礼節を語る大人の存在価値を問い直してもいいのでは…。